

1．グループ診療とは

ver4.0.0 よりグループ診療機能が実装されます。

グループ診療とは、1つの「日レセ」システムで複数医療機関の運用を可能とする機能のことを指します。

【留意事項】

本機能を物理的に離れた医療機関同士で利用することは、いわゆる診療録等を外部機関で保存することにあたります。医療機関等であれば診療録等を外部機関に保存することが可能ですが、サーバ等の置き場所については医療法人等が適切に管理する場所に置くなど、注意が必要です。

また、組織の外部と医療情報を交換することになりますので、ネットワークのセキュリティについても十分な注意が必要です。

これらについては、

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第2版」

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0301-12.html>

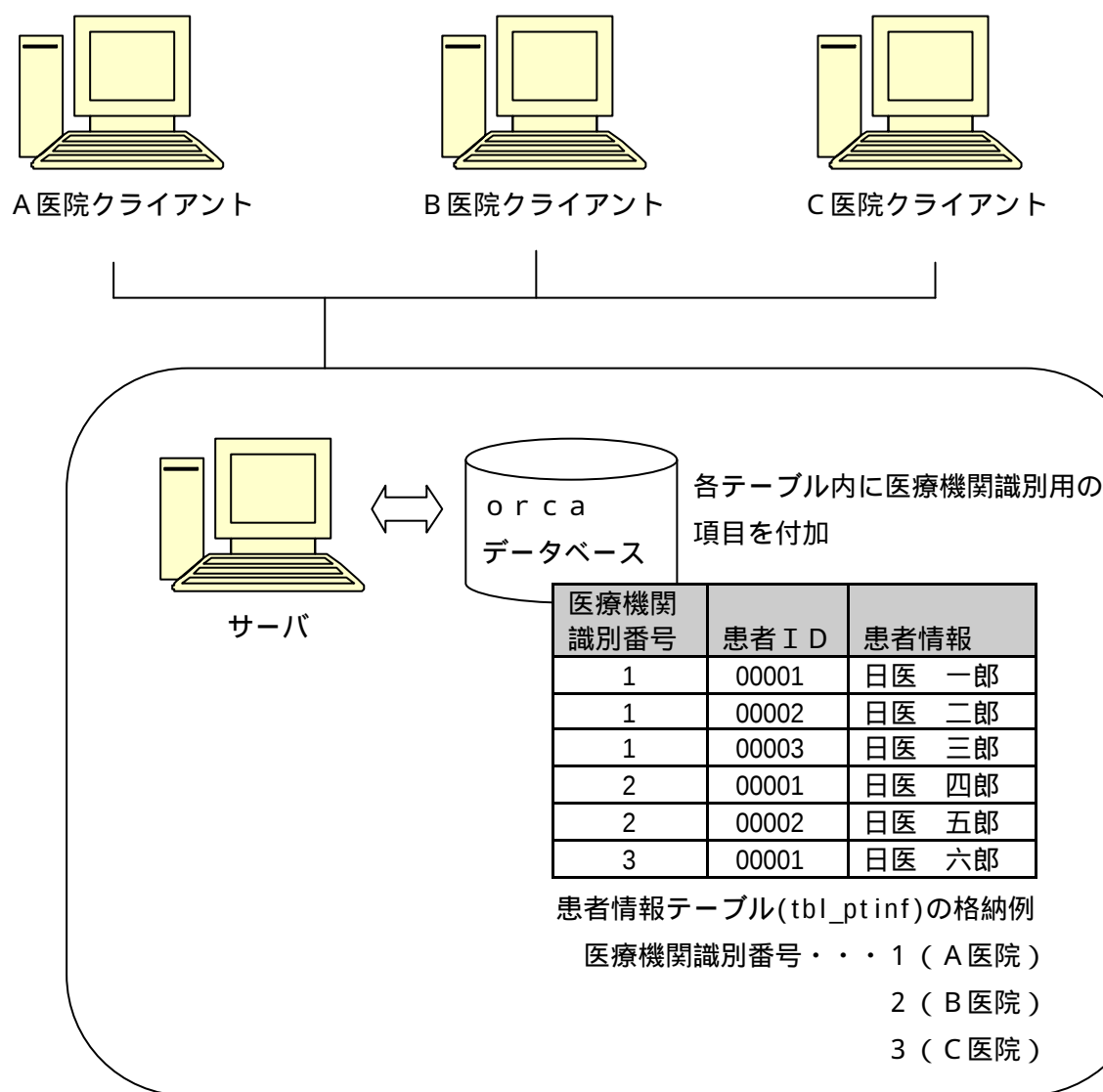
に詳細が記述されていますので、遵守の上、本機能をご利用願います。

2．グループ診療対応の概要

グループ診療対応の概要について説明します。

- ・ 基本的な仕組みとして、一つのデータベース（orca）で各テーブル一つ（tbl_ptinf 等）とし、各テーブル内に医療機関を識別するIDを格納することにより実装します。
- ・ 1システムで複数医療機関の運用が行えます。
- ・ 1システム内で複数医療機関のデータを管理する為、バッチ処理（レセプト処理）の同時処理を可能とします。

システム概要図



3．グループ診療の管理

グループ診療の設定をテーブルにより管理します。（管理用テーブルの新設）

システム基本テーブル：tbl_sysbase

管理項目

- ・グループ番号 ... テーブル管理上の番号（キー）
- ・医療機関識別番号 ... 医療機関を識別する番号（hospnum と同期）
- ・医療機関識別名称 ... テーブル管理上の便宜を図るための医療機関名称
- ・運用期限 ... 医療機関の運用を行う期限
- ・本院分院グループ番号 ... 本院分院のグループを管理する番号（システム内に複数の本院分院の組合せを構築できるように考慮）
- ・本院分院区分 ... 本院分院の関係がある場合に本院または分院を識別
0：本院分院でない
1：本院である
2：分院である

グループ番号	医療機関識別番号	医療機関識別名称	運用期限	本院分院グループ	本院分院区分
1	1	A 医院	99999999	0	0
2	2	B 医院	20041231	0	0
3	3	C 医院	99999999	1	1（本院）
4	4	C 医院 新宿分院	99999999	1	2（分院）
5	5	C 医院 赤坂分院	99999999	1	2（分院）
6	6	D 医院	99999999	2	1（本院）
7	7	D 医院分院	99999999	2	2（分院）

システム管理 1 0 0 1 医療機関基本情報

医療機関識別番号	管理番号	区分番号	有効期間	名称	医療機関番号
1	1001	*	0 ? 9	A 医院	11111111
2	1001	*	0 ? 9	B 医院	2222222
3	1001	*	0 ? 9	C 医院	3333331
4	1001	*	0 ? 9	C 医院 新宿分院	3333332
5	1001	*	0 ? 9	C 医院 赤坂分院	3333333
6	1001	*	0 ? 9	D 医院	4444441
7	1001	*	0 ? 9	D 医院分院	4444442

システム基本テーブルは、パッケージのインストール、アップグレードにより作成されます。初期データとして医療機関識別番号「1」のレコードが1件登録されています。これにより1医療機関の運用が可能となります。また、医療機関識別番号「1」が基本となりますので変更または削除はしないでください。

医療機関識別番号「1」が存在しない場合は運用できません。

2つめからの医療機関の登録については、後日資料を提供します。

システムユーザーテーブルは、パッケージのインストール、アップグレードにより作成されます。初期データはシステム管理テーブルの職員情報に登録されているオペレーターIDに対し医療機関識別番号を「1」として登録します。オペレーターIDに ormaster がある場合は、それをスーパーバイザーとして登録します。

システムユーザーテーブルの操作は、日レセ業務画面からではなく、gluseradd と同様にコマンドで作成する方式を提供します。

（3.5.0pre2 ではコマンドは提供されていません。psql コマンドから SQL 文で操作を行ってください。）

初期データでシステム管理テーブルには管理者として登録されていてもスーパーバイザーとはいたしません。

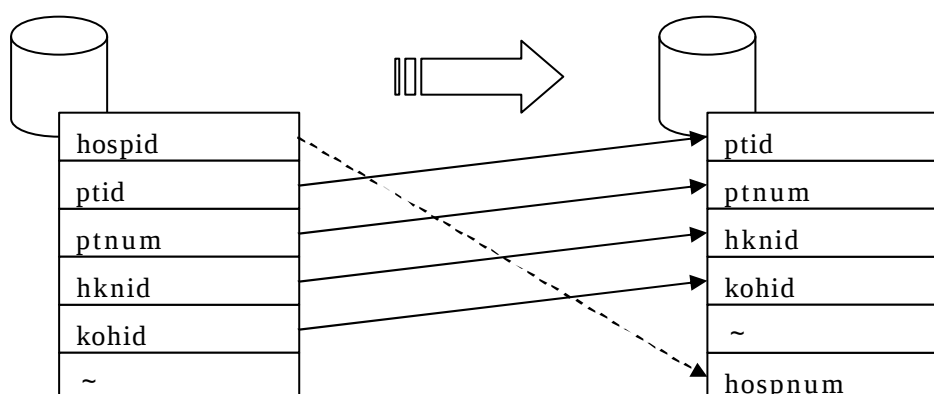
5．テーブルスキーマ変更

各テーブルは以下の変更を行います。

（1）医療機関ID（hospid）列が存在する場合

hospid 列が存在するテーブルは、hospid を hospnum へ変更します。

（例）患者番号テーブル(tbl_ptnum)



(1) hospnum 列の追加 (integer)

```
alter table tbl_ptnum add column hospnum integer ;
```

(2) hospid 列の削除

```
alter table tbl_ptnum drop column hospid ;
```

プライマリキー、インデックスで hospid 列を設定しているものは削除される。

(3) hospnum 列に初期値 (1) をセット

```
update tbl_ptnum set hospnum = 1 ;
```

(4) プライマリキーを作成

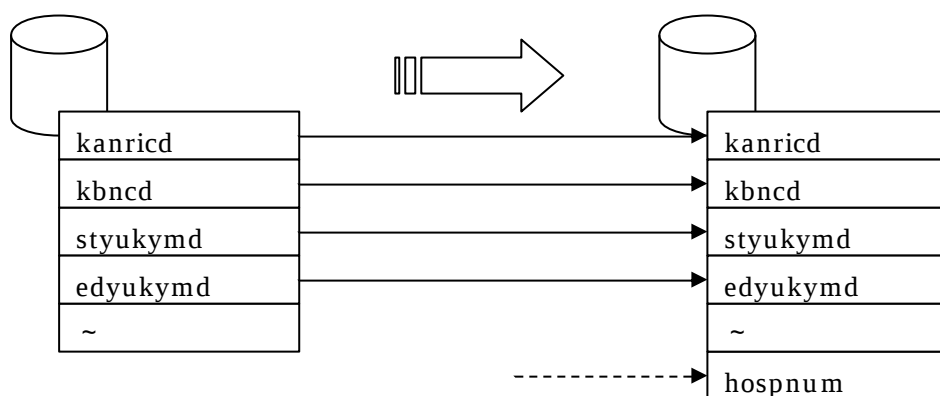
```
alter table tbl_ptnum add constraint tbl_ptnum_primary_key primary key  
(hospnum,ptid) ;
```

hospid 列を削除し、hospnum 列を追加します。よって、テーブル内での列順序は変更となります。また、パッケージのインストール、アップグレードにより hospnum 列には初期値として 1 が格納されます。

（２）医療機関 ID (hospid) 列が存在しない場合

hospid 列が存在しないテーブルは、hospnum を追加します。

（例）システム管理(tbl_syskanri)



(1) hospnum 列の追加 (integer)

```
alter table tbl_syskanri add column hospnum integer ;
```

(2) hospnum 列に初期値 (1) をセット

```
update tbl_syskanri set hospnum = 1 ;
```

(3) プライマリキーを削除

```
alter table tbl_syskanri drop constraint tbl_syskanri_primary_key ;
```

(4) プライマリキーを作成

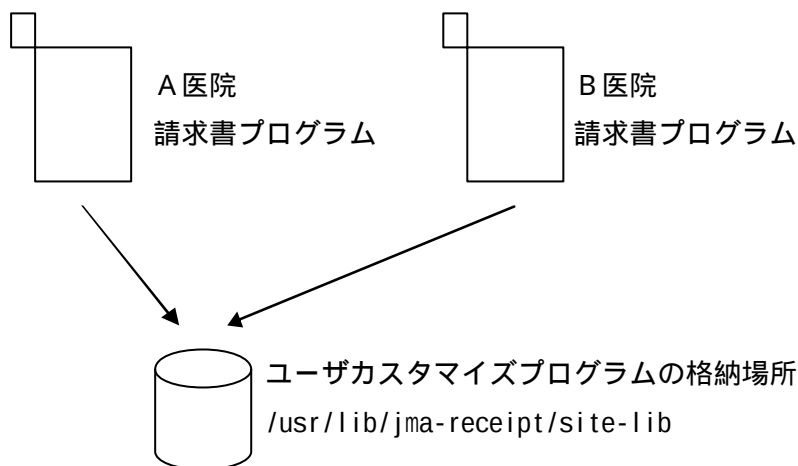
```
alter table tbl_syskanri add constraint tbl_syskanri_primary_key primary key  
(hospnum, kanricd, kbncd, styukymd, edyukymd) ;
```

パッケージのインストール、アップグレードにより hospnum 列には初期値として 1 が格納されます。

6 . ユーザープログラムの修正

ユーザーにより作成されたプログラムは、グループ診療対応に合わせた修正を行わなければ動作しなくなります。（暫定的な救済措置は、今後のためにも行ないません。）

また、医療機関別に請求書兼領収書などのカスタマイズプログラムが存在する場合は、プログラム名を医療機関毎に別名としそれぞれ作成する必要があります。



格納場所については今までと同様にする為、プログラム名が重複した場合、どちらかの医院のプログラムが無効となってしまいます。帳票のフォームIDについても同様です。

ユーザープログラムの修正内容については、別紙「カスタマイズプログラムのグループ診療対応（共通）」など各種ありますのでそちらを参照してください。

7. ユーザー起動プログラム

ユーザー起動プログラムでは、システムからシェルスクリプトを起動する際に医療機関識別番号をパラメータとして渡すように変更しています。

ユーザープログラム側では、パラメータにより通知された医療機関識別番号を使用してテーブルアクセスを行うように変更する必要があります。変更方法の詳細は別紙「カスタマイズプログラムのグループ診療対応（共通）」など各種ありますのでそちらを参照してください。

8. プログラム更新

パッチプログラムの適用は、「4. データ参照保護」で説明しましたスーパーバイザー特権をもつユーザーのみが実行できます。医療機関毎のシステム管理者権限（システム管理テーブルで登録する権限）では実行できないようにします。

9. マスタ更新

マスタ更新は、各医療機関で随時実行できます（現行通りとする）。

ただし、共有マスタについては、「4. データ参照保護」で説明しましたスーパーバイザー特権をもつユーザーが実行した場合に適用されます。医療機関毎のシステム管理者権限（システム管理テーブルで登録する権限）では共有マスタは適用されないようにします。

共有マスタ ... 病名マスタ、検査分類マスタ、相互作用マスタ、症状措置マスタ、適応病名マスタ、一般名マスタ、包括チェックマスタ、包括診療コードマスタ

10．外部システム連携

グループ診療での CLAIM 接続による医療機関識別は以下のように mmICm に施設 ID として医療機関 ID を設定することにより行います。

```
<mmICm:Id mmICm:type="insurance" mmICm:tableId="MML0027">  
    JPN000000000000  
</mmICm:Id>
```

また、ODBC 接続などにより外部から直接データベースにアクセスする場合は hospnum を考慮したアクセス方式に変更しなければいけません。

11．医療機関の追加設定方法

2 項目以降の医療機関を追加する方法を説明します。

追加するためのスクリプトを以下よりダウンロードします。

<ftp://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/hospadd-ver420.tar.gz>

このファイルは日レセバージョン 4.2.0 に対応したものです。

(1) ファイルを解凍します。

```
$ tar xvfz hospadd-ver420.tar.gz
```

(2) 日レセを終了します。

```
$ sudo /etc/init.d/jma-receipt stop
```

(3) 追加処理を行います。

```
$ cd hospadd-ver420
```

```
$ sudo ./jma-receipt-db-hospadd.sh 2
```

オプションの 2 は追加する医療機関識別番号です。医療機関識別番号は必ず連番で追加するように指定します。

(4) 医療機関 ID の設定を行います。

```
$ sudo -u orca /usr/lib/jma-receipt/bin/jma-receipt-hospid-set.sh 2 JPN999999999999
```

オプションの 2 は追加する医療機関識別番号です。JPN999999999999 は医療機関 ID です。

(5) 日レセを起動します。

```
$ sudo /etc/init.d/jma-receipt start
```

(6) 追加処理で作成された臨時ユーザー admin パスワード admin で日レセに接続します。

医療機関識別番号が 2 以上のユーザーでログインした場合は、マスターメニューの「03 プロ

「グラム更新」ボタンが非活性となります。

- (7) システム管理の管理番号 1010「職員情報」から追加した医療機関の管理者となるオペレータ ID（admin 以外）を作成します。

正しく作成できたら「5 管理職」の「0001 管理者」を呼び出し「削除」ボタン(F3 キー)で削除します。

一度ログアウトします。

- (8) パスワードから臨時ユーザー admin を削除します。

admin は追加処理により作成されています。

```
$ sudo -u orca /usr/lib/panda/sbin/gluserdel admin -file /etc/jma-receipt/passwd
```

- (9) 新しく登録した管理者のパスワード設定を行います。

```
$ sudo -u orca /usr/lib/panda/sbin/gluseradd <user> -p パスワード -file  
/etc/jma-receipt/passwd
```

- (10) パスワードの再読み込みを行います。

```
$ sudo /etc/init.d/jma-receipt reload (restart でもかまいません)
```

- (11) 新しい管理者ユーザーで日レセに接続します。

- (12) 以上で追加処理は終了です。後は、システム管理の医療機関基本情報など、通常のセットアップを行います。